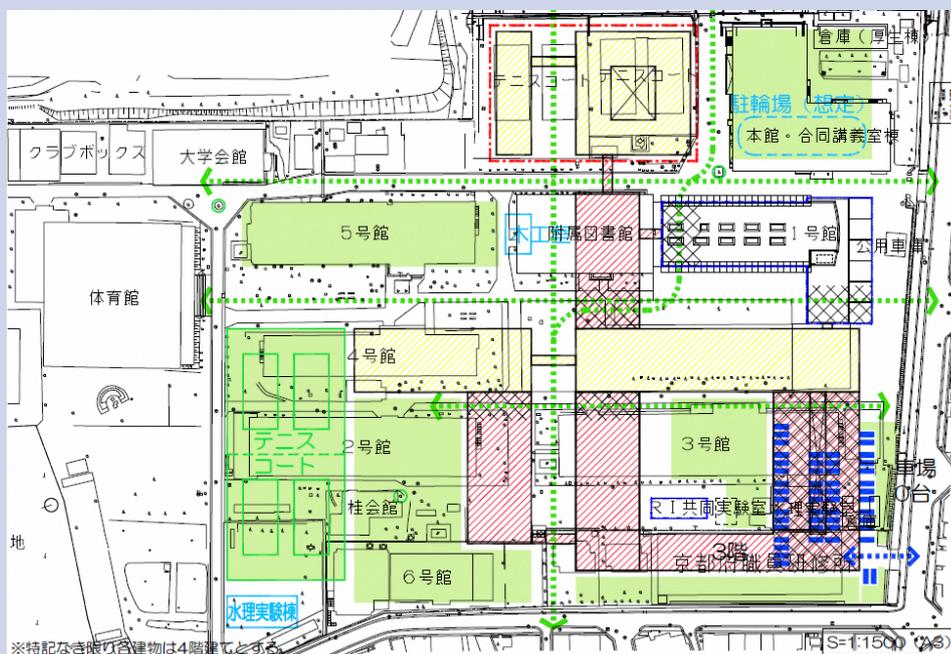


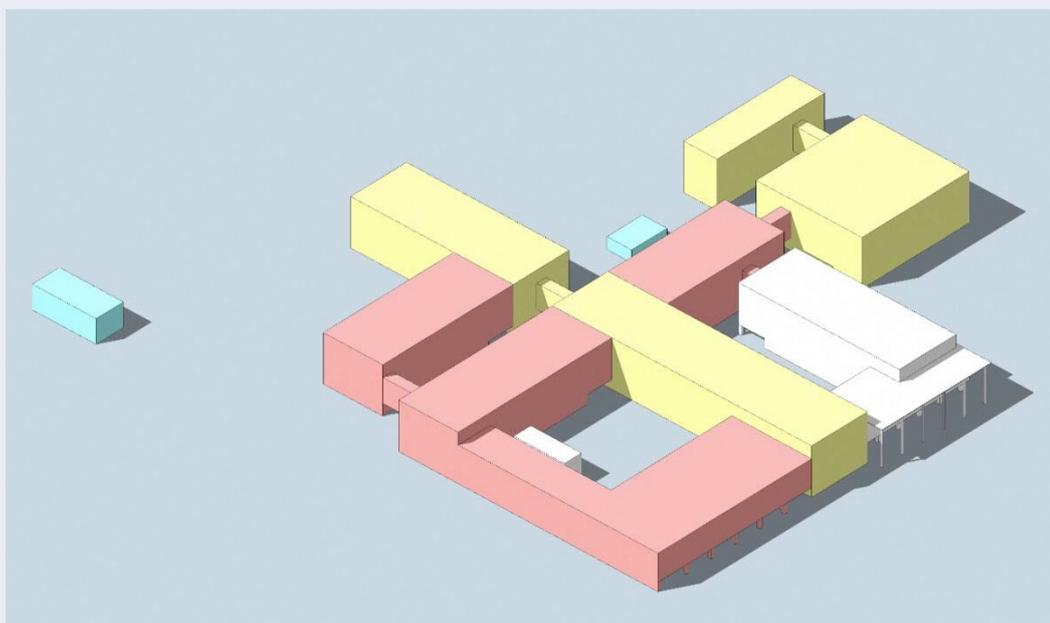
レイアウトイメージ総括表

PLAN A

レイアウト



3Dイメージ

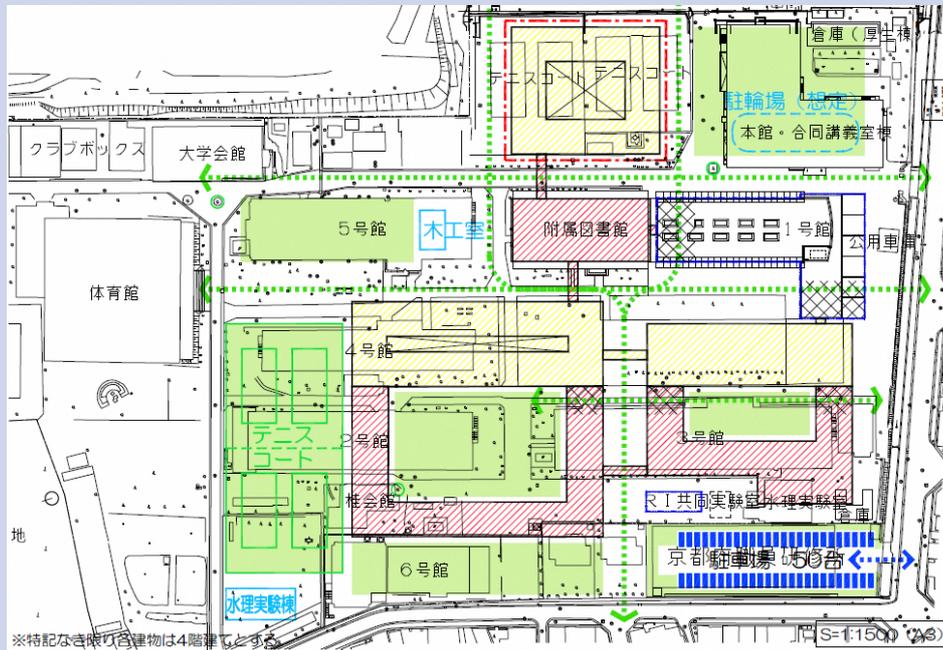


考え方・課題等

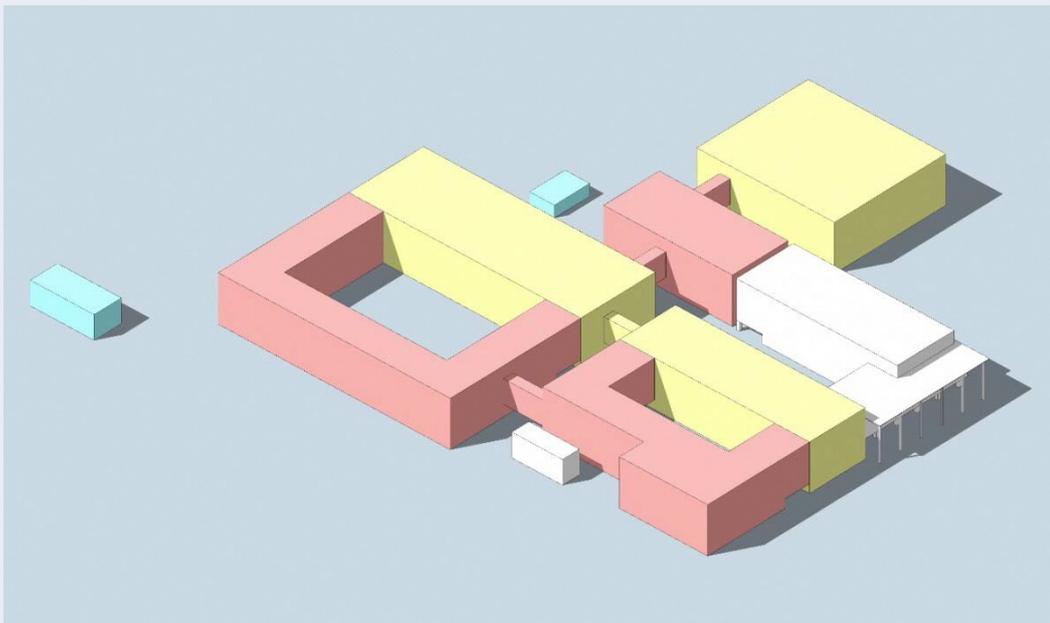
- 校舎を東側に集約し、西側の体育館との間に空地を確保
- 3つの大オープンスペースを配置
- 南北プロムナードを直線的に配置
- 南北動線を直線的に配置し、オープンスペースとピロティで接続
- 地域連携棟西側の専有面積が限定的で、活用範囲も限定
- 南側低層住宅街に校舎がやや近接し住宅への圧迫感が比較的ある

PLAN B

レイアウト



3Dイメージ

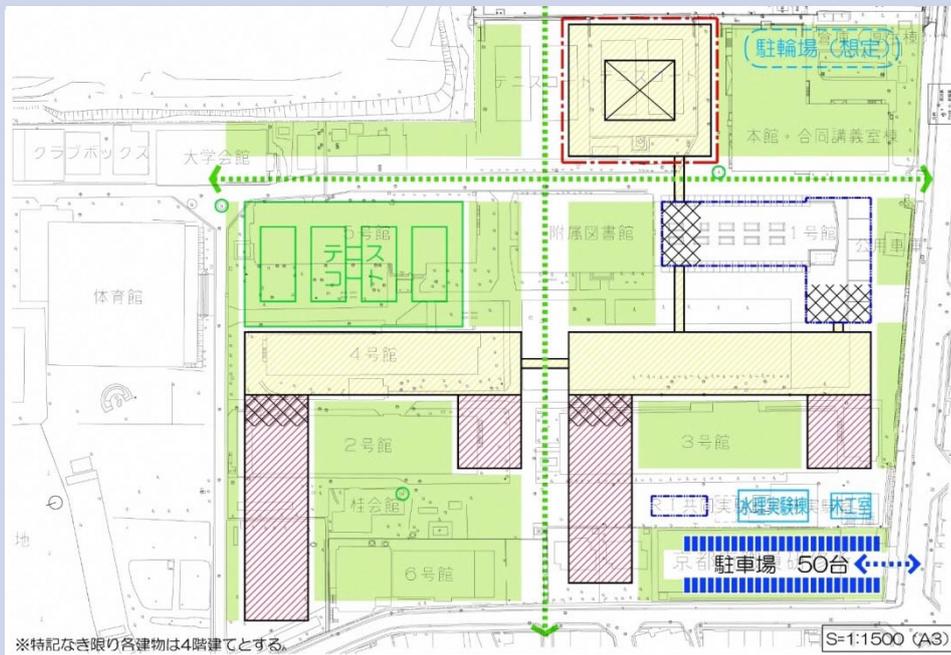


考え方・課題等

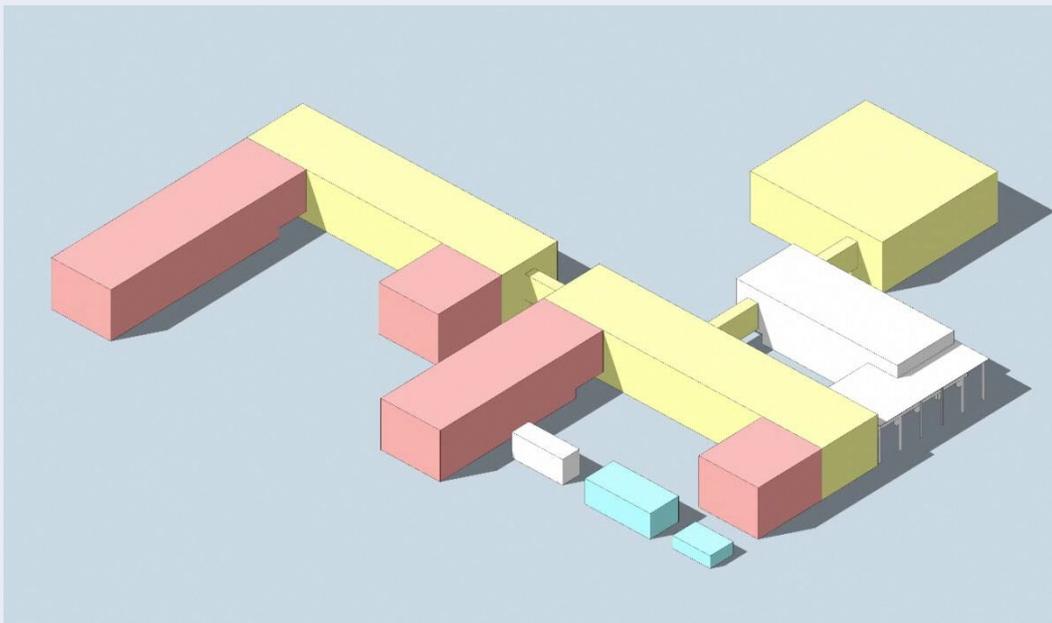
- 南側校舎を口の字に配置し、「片廊下及び吹き抜け+トップライト」の併用により採光を確保
- 口の字配置によりフレキシブル性を向上
- 多様なオープンスペースを配置（6箇所）し、学生・教職員のコミュニケーションスペース等を確保
- 南側低層住宅街との建物セットバック距離を十分に確保
- 南北動線が回遊的

PLAN C

レイアウト



3Dイメージ

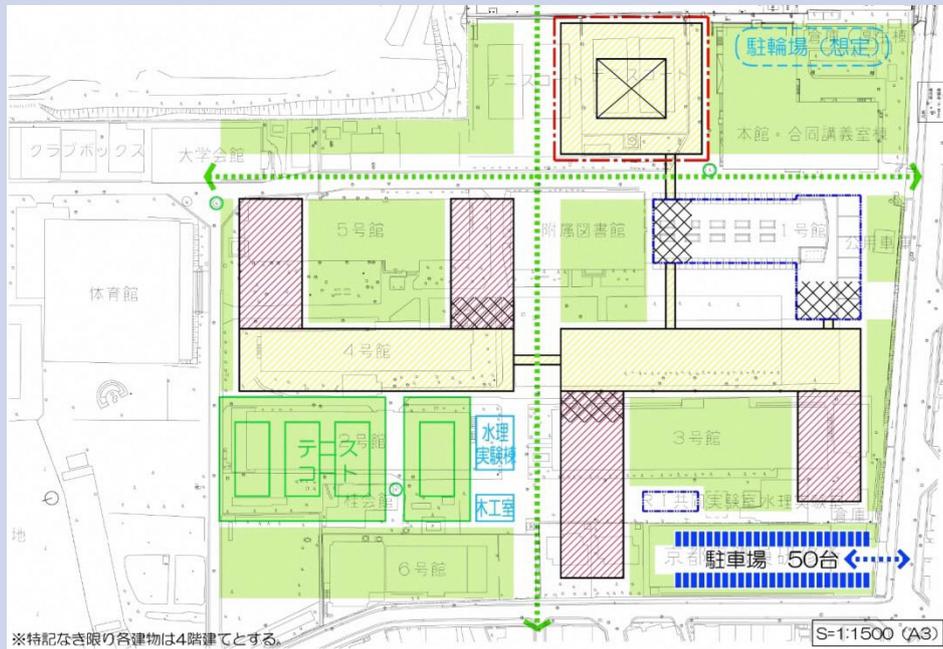


考え方・課題等

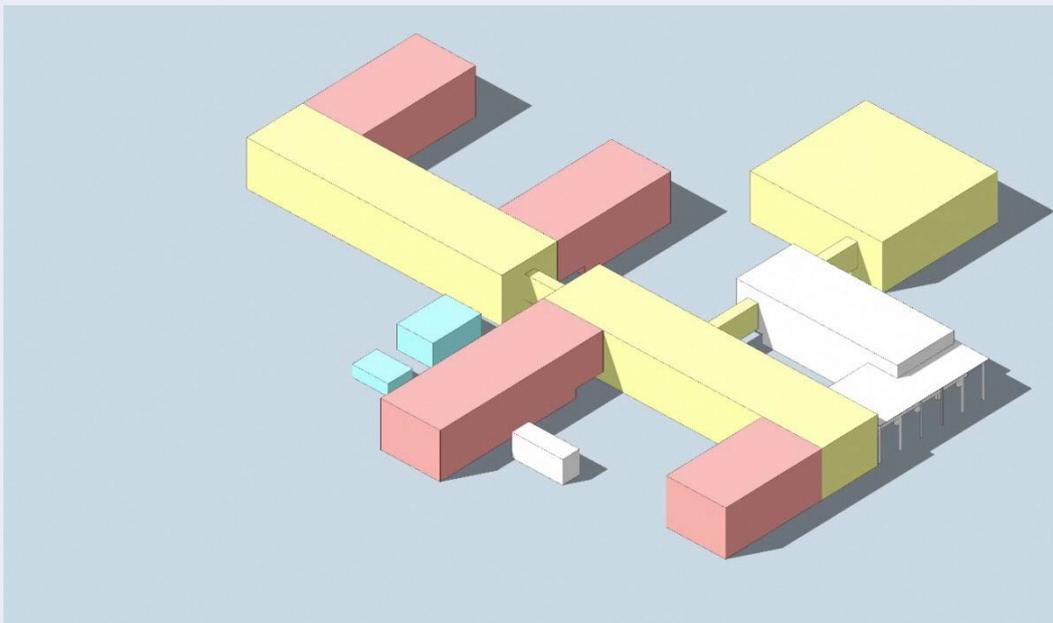
- 南側、東側住宅街に対して壁面積を減らし、地域への開放的空間を創出
- 敷地西側を積極的に使用
- 十分な隣棟間隔により、採光・通風を確保
- 主動線が明るい空間となるよう、プロムナードに面する建物を減らし、緑地を配置
- 南向きのコの字配置により、開かれた中庭を計画
- 動線の交点にオープンスペースを設けることで、学生間の交流を促進
- 校舎を東西に広く配置したことにより、内部動線が長くなる

PLAN D

レイアウト



3Dイメージ

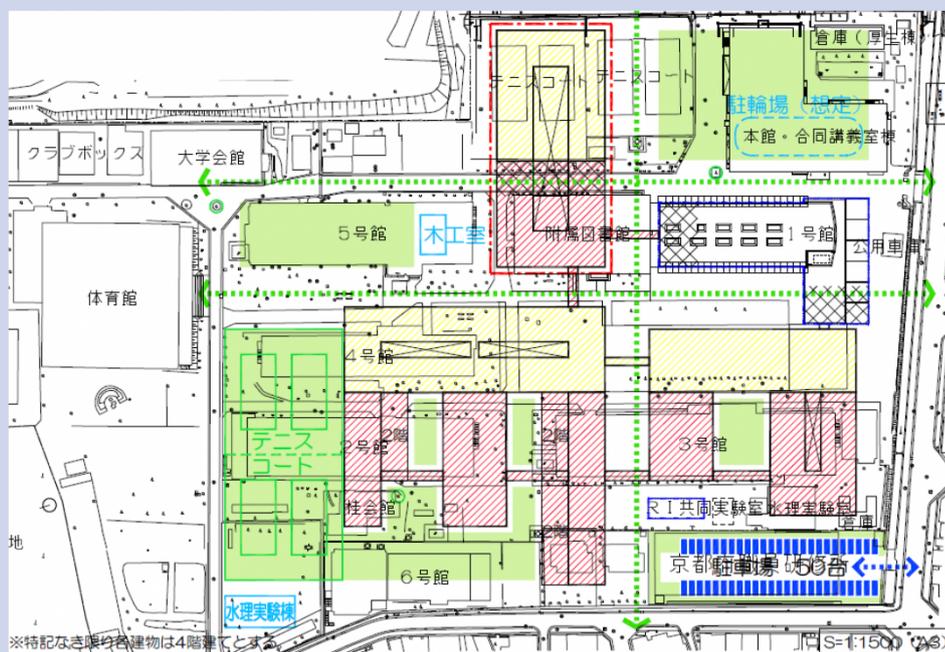


考え方・課題等

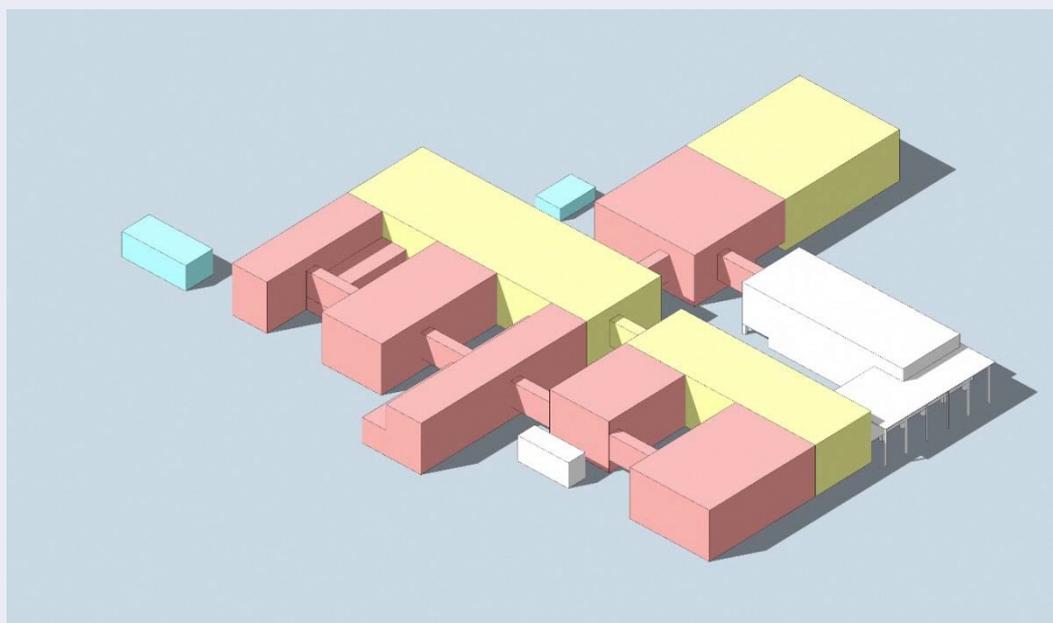
- 南側、東側住宅街に対して壁面積を減らし、地域への開放的空間を創出
- 敷地西側を積極的に使用
- 十分な隣棟間隔により、採光・通風を確保
- 主動線が明るい空間となるよう、プロムナードに面する建物を減らし、緑地を配置
- 南北向きのコの字配置により、開かれた中庭を計画
- 敷地南西側にスポーツゾーンと連携する大きな空地を確保
- 校舎を東西に広く配置したことにより、内部動線が長くなる
- 耐震上課題のある2号館の移転が、課題の少ない5号館より後になる

参考 1

レイアウト



3Dイメージ

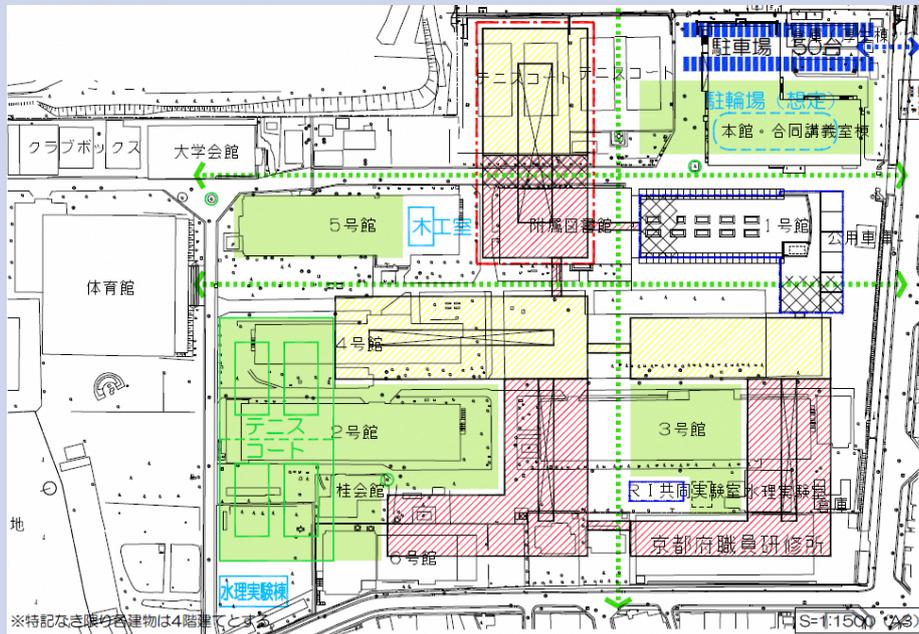


考え方・課題等

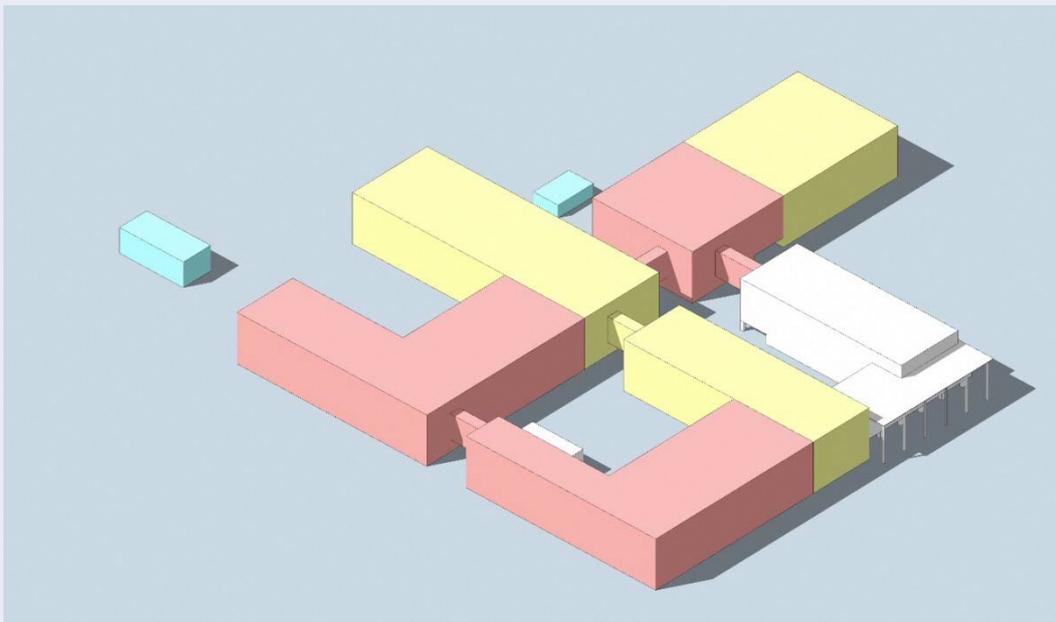
- 地域連携棟面積を拡充しピロティを挟んで南北に配置
- 南側に楕形に校舎を配置、校舎により機能別配置の明確化が可能
- 校舎間の緑地を含め、多様なオープンスペースを配置（7箇所）
- 南北プロムナードを直線的に配置
- 南側低層住宅街との建物セットバック距離を確保。
- 地域連携棟の1期工事面積が比較的少なく、当初入居スペースが限定
- 南北の校舎が多く日照の影響を大きく受ける
- 区切られた空間のコミュニケーションスペースが閉鎖的で使いづらい

参考 2

レイアウト



3Dイメージ

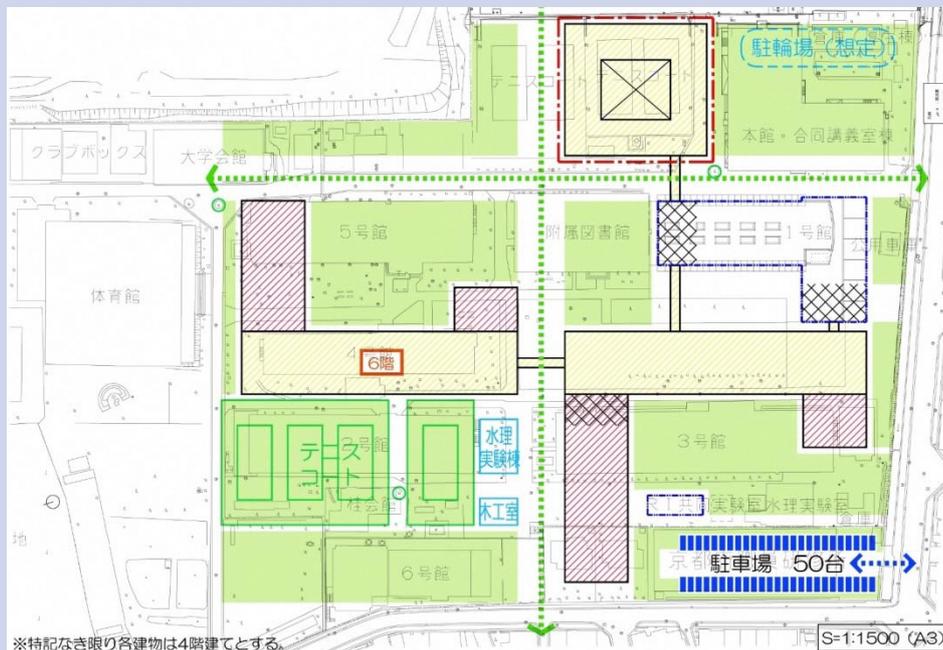


考え方・課題等

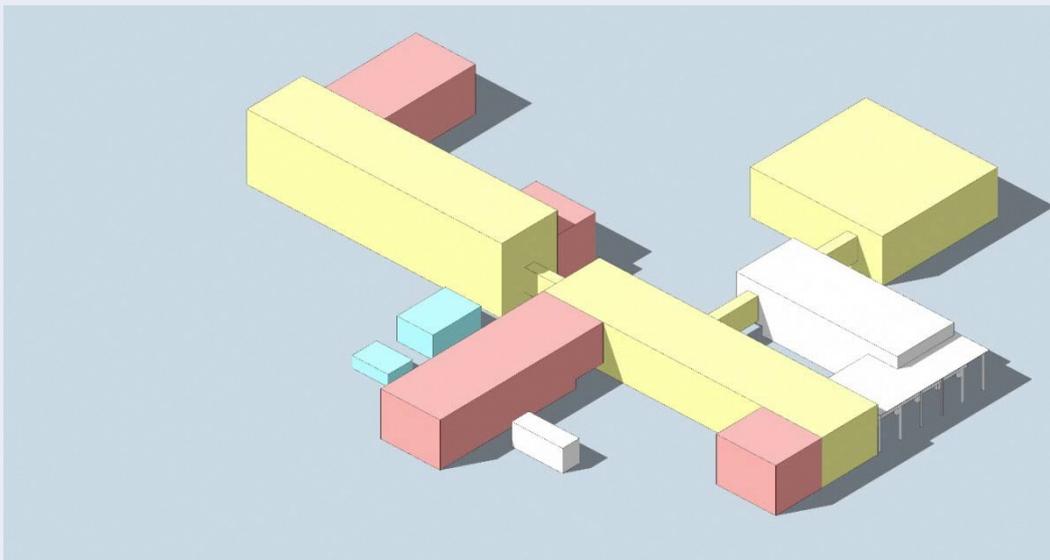
- 地域連携棟面積を拡充しピロティを挟んで南北に配置
- 南側校舎はコの字に配置し、西側に広く開口部を設け空間を確保
- 3箇所の大きなオープンスペース（広場）を配置
- 南北プロムナードを直線的に配置
- 南側・東側低層住宅街に校舎が比較的近接し住宅への圧迫感が増化
- 地域連携棟の1期工事面積が比較的少なく、当初入居スペースが限定

参考3（特例許可制度適用）

レイアウト



3Dイメージ



考え方・課題等

- 「特例許可制度（高さ規制緩和）」を適用し、校舎の一部を6階建てとして建築面積を減らすことで、広場や将来建て替えスペースとなる空地を確保し、校舎内動線を短縮
- 地域連携棟を1期で完成
- 校舎を東西に広く配置
- 南北プロムナードを直線的に配置
- 東西プロムナードの交点や計画地南西側に大きな空地を確保
- 「特例許可制度」の手続き期間が必要となり、全体工程に影響
- 許可手続きになるため、必ず高さ規制緩和が通るとは限らない
- 耐震上課題のある2号館の移転が、課題の少ない5号館より後になる